

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
廿日市市立大野東小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	5	5	5	5	5	5	30	7	37

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	5	3	15	
理科	6	3	3	9	

授業時数 計 24 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 24 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 3組 (担任: A)	A	A	A	A	推進	専科	B	A	A	C	A	A	A
6年 4組 (担任: B)	B	B	B	B	推進	専科	B	A	B	C	B	B	B
6年 5組 (担任: C)	C	専科	C	C	推進	専科	B	A	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	D	専科	D	D	推進	専科	F	E	D	D	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	E	E	E	E	推進	専科	F	E	E	D	E	E	E
5年 3組 (担任: F)	F	F	F	F	推進	専科	F	E	F	D	F	F	F
5年 4組 (担任: G)	G	H	G	G	推進	専科	G	G	G	H	G	G	G
5年 5組 (担任: H)	H	専科	G	H	推進	専科	H	H	H	H	H	H	H

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	28	I	6-2	社会	3	3	21.4	24.4
6-2	29	J	6-1	理科	3	3	21.4	24.4
6-3	29	A	6-4	家庭	1.6	3.2	21.2	24.4
			6-5	家庭	1.6			
6-4	29	B	6-3	図工	1.4	2.8	21	23.8
			6-5	図工	1.4			
6-5	30	C	6-3	外国語	2	4	20.6	24.6
			6-4	外国語	2			
5-1	30	D	5-2	外国語	2	4	20.5	24.5
			5-3	外国語	2			
5-2	29	E	5-1	家庭	1.7	3.4	21.2	24.6
			5-3	家庭	1.7			
5-3	30	F	5-1	図工	1.4	2.8	20.9	23.7
			5-2	図工	1.4			
5-4	30	G	5-5	社会	2.9	2.9	21.6	24.5
5-5	30	H	5-4	外国語	2	3	20.7	23.7
			5-4	書写	1			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<p>〈効果のあった取組〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制推進教員による専科授業 ・交換授業 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任及び生徒指導主事、教務主任、教科担任制推進教員の連携 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統性が分かる指導 ・担任による教科担任制の説明 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換授業 	▶	<p>〈成果〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問や展開など、学級ごとの実態に合わせたものを考え、児童が課題意識をもって主体的に実験に取り組めるように考えることができた。 ・同じ授業を複数回実施することで授業の質を向上させることができた。また、6年の理科を交換授業で行っている教員は、教科担任制推進教員と連携することにより、効率的に教材研究を行うことができた。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携を行うことにより、学級や個に応じて、組織的に生徒指導を進めることができた。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制推進教員による授業では、導入でこれまでの学習と、まとめに今後の学習について系統性の分かる指導を行うことができた。その際、必要に応じて中学校での理科の内容も紹介することができた。 ・担任が中学校の教科担任制と小学校の教科担任制を関連させて説明することによって、児童は中学校の学校生活をイメージすることができていた。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任は教材研究が必要な教科が減り、別の仕事に時間を使うことができた。
<p>〈課題〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで、「教材研究の深化や教材の工夫につながっている。」を選択する職員の割合は、「当てはまる」の目標値が41.7%、「やや当てはまる」を含めると91.7%となった。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専科の教員は、関わりのある児童全員を把握しきれないときがある。 ・教職員アンケートで、「情報共有できている。」の質問に「とても当てはまる。」を選択する職員の割合は、「当てはまる」で41.7%で目標の80%は達成できなかった。「やや当てはまる」を含めると91.7%だった。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「中学校での教科担任制に対して、不安がなくなりました。」で、肯定的評価を選択する児童の割合は77.2%で目標の90%を達成できなかった。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の教員で同時に交換授業を行うと、教員が不在の時などは時間割の編成がしにくくなる。 	▶	<p>〈対策〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意ではない教科の担当になることで強い不安をもって指導していた。他の教員と連携しながら指導に当たれたことについては、不安の緩和に繋がったようである。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座席表を作成して児童の名前を覚える。 ・担任との連携を通して児童についての情報を共有する。 ・休憩時間などに、児童と会話をするなどして関わる。 ・情報共有する場を設定し、組織的に連携を高める必要がある。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や生徒指導主事、学校カウンセラーと連携して、児童が具体的にどのようなことに不安を感じているかを組織的に調査する必要がある。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専科と交換授業をしたり、副担任などの立場の職員を置いたりして、ペアで交換する授業を設定する。